

路網整備について

1 日本の現状

1)日本の森林内の路網密度(平成22年度末現在)

森林面積	林道等(林道・公道)		作業道等(作業道・作業路)		合計	
千ha	延長 km	密度(m/ha)	延長 km	密度(m/ha)	延長 km	密度(m/ha)
24,995	323,006	12.9	117,976	4.7	440,982	17.6

2)林内路網密度の諸外国との比較 (林内の路網整備が必要)

種別	国別	日本	オーストリア		ドイツ	
			日本との比較	日本との比較	日本との比較	日本との比較
林道等		13	45	3.5倍	54	4.2倍
作業道等		5	44	8.8倍	64	12.8倍
合計		18	89	4.9倍	118	6.6倍

3)地形・地質による諸外国との比較 (日本の地形等から路網整備には工夫が必要)

種別	国別	日本	オーストリア	ドイツ
地形		国土の7割が山岳地帯	ボヘミア高地、ウィーン盆地など丘陵地帯が多いがアルプス付近は日本より急峻	北ドイツ:平坦。平均標高40~50m 中部ドイツ:平均標高400~500mの丘陵地帯(黒い森) 南ドイツ:アルプス地帯
地質		火成岩が多く全土を覆っており、堆積岩も多い。	石灰岩の固い岩盤が多い。中生代~新生代のアルプス造山活動の影響を強く受けている。	古生代~第三紀の基岩が多い。アルプス付近は石灰岩の固い岩盤。
まとめ		急峻な地形が多く、火山性の地層が広く分布し、岩盤が風化作用を受けやすい。	地形は急峻だが、石灰岩質の多い岩盤は安定している。	南アルプス地帯を除いて、ほとんどが丘陵地形で、地層は安定している。

2 路網整備の目標 (基幹・細部路網と地形を組み合わせにより、路網密度を倍増へ)

※上段は国、下段( )内は市 (単位:m/ha)

区分	作業システム	基幹路網			細部路網		路網密度
		林道	林業専用道	小計	作業道		
緩傾斜地(0~15)	車両系作業システム	15~20	20~30	35~50(35以上)	65~200	100~250(100以上)	
中傾斜地(15~30)	車両系作業システム	15~20	10~20	25~40(25以上)	50~160	75~200(75以上)	
急傾斜地(30~35)	架線系作業システム	15~20	0~5	15~25(15以上)	45~125	15~50(15以上)	
急峻地(35~)	架線系作業システム	5~15		5~15		5~15	

3 市の路網整備

1) 基幹路網(林道)

整理番号	路線名	管理主体	種類・区分	全幅員	延長 m	利用区域		密度 (m/ha)	道 用
						面積(ha)	蓄積(m³)		
1	岩内線	帯広市	自動車2級	4.0	5,800	888	106,652	6.53	
2	茂吉沢線	"	2級	3.6	2,292	218	40,375	10.51	
3	村元の沢線	"	"	4.0	2,381	182	41,033	13.08	
4	紅葉の沢線	"	"	4.0	1,384	154	31,910	8.99	
5	五線沢線	"	"	5.0	5,616	599	14,590	9.38	
6	八千代線	"	"	4.0	2,060	198	6,185	10.40	
7	石山第2線	"	"	4.0	2,962	203	17,415	14.59	
8	花春内線	"	"	4.0	(2,500)	384	31,678	(6.51)	廃道1.5km、豊似川線へ編入1km
9	林三沢線	"	"	4.0	1,842	109	7,402	16.90	
10	岩内支線	"	"		2,840	63	5,202	45.08	
11	五線沢支線	"	"	4.0	555	93	3,147	5.97	
12	会館の沢線	"	"	4.0	2,083	89	8,846	23.51	
13	北岩内線	"	"	4.0	2,980	152	18,455	19.61	
14	豊似川線	"	"	4.0	4,684	546	62,533	8.58	
				(市内)	29,833	2,745	283,797	10.87	
				(市外)	7,646	749	79,948	10.21	
				計	37,479	3,494	363,745	10.73	

2) 基幹路網(林業専用道(規格相当))

1	南岩内線	帯広市	自動車	3.5	2,402	103	23,353	23.32	H25年基金事業 林業専用道(規格相当)茂吉1号・茂吉1号支線廃止
---	------	-----	-----	-----	-------	-----	--------	-------	-----------------------------------

3) 細部路網(森林作業道)

1	西岩戸1号作業路	作業道	3.0	5,100
2	西岩戸2号作業路	"	3.0	4,300
3	茂吉1号作業路	"	3.0	1,000
4	茂吉2号作業路	"	3.0	2,500
5	60-6作業道	"	3.0	315
6	60-17作業道	"	3.0	478
7	紅葉2号作業路	"	3.0	1,100
8	紅葉3号作業路	"	3.0	800
9	紅葉作業路	"	3.0	450
10	芳野1号作業路	"	3.0	650
11	芳野3号作業路	"	3.0	1,000
12	越路沢作業路	"	3.0	2,800
13	越路沢支線作業路	"	3.0	700
14	63-7作業道	"	3.0	287
			(市内)	123,727

4) 路網延長(集計)

市内	基幹路網	32,235	全体	基幹路網	39,881
	細部路網	123,727		細部路網	123,727
	計	155,962		計	163,608

5) 森林面積について

	帯広市	清水町	広尾町	計
森林面積	4,877	234	191	5,303
①平地	1,542			1,542
②山岳	3,335	234	191	3,761
③利用区域	2,745	203	546	3,494
未利用区域	590	31	-355	267

6) 路網密度について

	基幹路網	路網密度	単位:m/ha
市内	12	57	
全体	11	47	

※路網延長 ÷ 森林の利用区域面積 = 路網密度  
 基幹路網については、林道を補完するための林業専用道・森林作業道であるため、利用区域は重複する。

5 まとめ

山岳林において、既存路網の傾斜区分が明確になっていないが、基幹路網及び細部路網は目標に達していないと判断できる。このため、今後も路網整備が必要となるが、開設に当たっては、森林整備事業に基づいた、適切な時期を設定し、計画的・効率的かつ、経済性を考慮していく。

※山岳林の傾斜が不明なため、目標と表現に相違がある。